

名 称		平成 28 年度 第 2 回 ほどがや市民活動センター評議会 議事録	
日 時		平成 29 年 3 月 22 日 (水) 18:00~20:00	
場 所		ほどがや市民活動センター(アワーズ) ミーティングスペース	
出席者	評議会委員	浅井 経子 委員 (八洲学園大学 生涯学習学部 教授)	
		有元 典文 委員 (横浜国立大学 教育人間学部 教授)	
		小倉 敬子 委員 ((公財)かわさき市民活動センター 理事長)	
		近藤 博昭 委員 (横浜商工会議所西部支部 支部委員)	
		竹迫 和代 委員 (参画はぐくみ工房 代表兼ファシリテーター)	
		畑尻 明 委員 (保土ヶ谷区連合町内会長連絡会 会長)	
	保土ヶ谷区役所	地域振興課 生涯学習支援係長 大屋 将佐	
		同 生涯学習支援係 西村 佳那子	
		同 生涯学習支援係 西戸 達哉	
		同 生涯学習支援係 平山 啓子	
	協働運営会議	副代表 福田 昌子	
	管理運営業務 受託者 特定非営利活動法人 横浜市民アクト	特定非営利活動法人 横浜市民アクト 理事長 福島 伸枝	
		特定非営利活動法人 横浜市民アクト 監事 佐藤 洋志	
		ほどがや市民活動センター センター長 吉弘 初枝	
		同 職員 望月 智子	
		同 職員 伊勢 俊枝	
		同 職員 三浦 康子	

議 題	(1)平成 28 年度下半期 ほどがや市民活動センターの運営及び業務について (2)評価シート記入 (3)その他 意見交換
資 料	1 平成 28 年度 ほどがや市民活動センター 評議会委員名簿 2 平成 28 年度 ほどがや市民活動センター 事業ならびに利用状況概要報告 3 平成 28 年度 ほどがや市民活動センター 事業チラシ・情報紙 4 保土ヶ谷区民の将来設計図

*大屋地域振興課生涯学習支援係長の開会の挨拶に続き、評議委員全員参加により会議成立を報告。

*第 2 回評議会議事録をほどがや市民活動センター ホームページ掲載することについて委員全員の了承を得る。

*第 1 回評議会時選出の通り、議長は小倉委員、副議長は浅井委員が務める。

議題(1)平成28年度下半期 ほどがや市民活動センターの運営及び業務について

センター職員・区役所地域振興課職員・協働運営会議副代表より、事業ならびに利用・相談件数について報告。

【委員からの質問および意見とアワーズからの回答】

『事業目標1 ネットワーク化を進める』について

(質問)利用者交流会について、参加者が毎回30名程度なのは、会場の定員が理由か。

(回答)ミーティングスペースには机1台に椅子6脚の形が9つあり、54名に対応。交流会当日は、応援隊登録者による演奏プログラムもあり、楽器を置くスペースや、隣の人の声が気にならないよう、30名程度が望ましいと考え、会場づくりをした。

(質問)「はぐくみプロジェクトとの連携・はぐくみ塾」について、区役所とアワーズはどう連携しているのか。

(回答)共催としての位置づけの事業となっている。企画・運営は区役所。区民が育っていく事業であり、中間支援を担うアワーズとして参画した。学習サポーターとして参加し、受講者の企画、運営に関しての相談対応や関係づくりをした。これからも区民と歩みをそろえながら、アワーズ全体として相談対応や関係づくりを進めていく。

『事業目標3 区民利用施設との連携による活動支援ならびに施設どうしの連携を進める』について

(意見)施設間連携を目指す研修会(保土ヶ谷区内施設職員・行政職員向け研修)について、1つの施設内だけの研修ではなく、他の施設職員と一緒に研修を受ける機会はよい。

『街の学習応援隊事業』について

(質問)「ちょっと体験講座」について、参加者数にばらつきがあるが、それはなぜか。

(回答)今年度初めての企画で、周知方法に課題があった。実施会場である施設はもちろん、周辺地域にも理解と協力を呼び掛けるようにしていきたい。

(質問)参加者へのアンケートは実施したか。友人と一緒に参加したかなど聞いたか。

(回答)アンケートは実施した。参加動機として知人の紹介があったかについては聞いた。単独もしくは友人、知人の参加かを把握し、周知方法の参考としたい。

(質問)「街の学習応援隊 作品展」について、作品を展示するのではなく、実際の活動を展示し、交流を図ることが目的である。登録する時に基本的なことを書いたものを提示しているか。

(回答)作品展については、次年度の課題としたい。登録時に登録要件・心構え等記載書類を渡し、説明を実施している。現在、登録更新手続中で、更新希望者に来館してもらい、改めて応援隊の活動について書類を基に理解を促し、これまでの活動状況などを聞き、顔の見える関係づくりに努めている。

(質問)「ちょっと体験講座」について、目的は、応援隊事業を広く区民に知ってもらうことと合わせて、応援隊が自立して活動できるようにつなげる目的もあったのではないか。

(回答)応援隊とは、体験講座実施後に振り返りの時間をもった。感想はもちろん、講座運営にあたって気づいたことなどを共有し、次の活動に活かしてもらうように話をした。

実際に会場となる施設で事前確認、打ち合わせをし、利用方法の確認も含め、施設職員とのつながりを持つ機会となるようコーディネートをした。

(質問)登録時、書面だけでなく、具体的にどのような活動ができるかを把握しているか。

(回答)月1回スタッフ全員がそろう会議の日に、新規登録者による30分程度のデモンストレーションを行い、活動内容を把握する機会を作っている。依頼があった時に、スタッフが活動内容を体感した上で詳しく伝えられるようにしている。

『他機関・団体等との協働』について

(質問)「退職後の地域活動推進事業実行委員会」について、ダイレクトメールは何歳の人を対象か。人数は？

(回答)67歳の方が対象で、約3,000人。退職後の方をターゲットに「セカンドステージ」ということで、パンフレットを同封し、地域での日々の過ごし方を提案する。どれだけ興味を持って、実際に一步を踏み出してもらえるかを図る目的もある。

(質問)モニターはいるのか。この内容で、「何かできるかな、行ってみよう」と思ってもらえるかどうか。

(回答)パンフレット作成にあたってモニターはいない。

(質問)掲載されている機関の住所、連絡先、アドレスが記載されていないが。

(回答)別刷りの地図・連絡先一覧を挟み込み、場所等案内する。

(意見)別の自治体で、65歳を機に同様の案内を送っていたケースがある。さまざまな受け止め方があるので、対象者をモニターし、意見等よく聞いたほうが良い。

(質問)「まなぶん祭りへの参画」について、1,500人の来場があったとのことだが、参加団体関係者が多いのか。応援隊のミニ講座などはないのか。何を目指して実施しているのか。

(回答)参加団体関係者も含まれるが、若い世代にアピールしたいということで、区内の小学校全生徒にチラシを配布している。親子連れの来場も多く、これまでアワーズに入ったことがなかった人も通りがかりに入ってくる。参加団体による体験講座や発表とともに、応援隊登録団体の体験型ワークも実施した。団体の活動内容を活かした抽選会(地産地消の活動を踏まえ、地場野菜が賞品になる、など)も開催した。隣接施設の理解を得、起震車による地震体験も実施した。次につながるような取り組みも必要と考えている。

『平成28年度利用状況概要』について

(質問)「サークルガイドの発行」について、団体登録の不受理数は公開しているか。大学などの場合、公益的な団体を装った団体もあり、悩ましい。

(回答)公開はしていない。不受理のケースもある。自主性、非営利性、公益性などを重点的に活動内容を確認している。

登録団体の中に利用会場変更がきっかけで、営利目的の利用であることがわかった。団体の代表と話し合い、登録抹消に至ったケースを報告。

(質問)政治活動はできるのか。

(回答)特定の政治家、政党に向けた活動はできない。政治課題に向けた活動はできる。

(意見)グリーゼンも多く、対応が難しい。講演会や会員募集のPRチラシなどのチェックも必要。

『相談・コーディネート』について

(質問)相談件数が大幅に増えている。相談する団体は重複しているのか。

(回答)同じ団体に何度も相談対応をするケースもある。活動団体からの相談が多くなったのは、アワーズが活動について役に立つと思ってもらえたのでは、と感じている。

(質問)相談件数の増加は、日々の努力の結果だと思う。法律的なことなど、専門的な知識が必要な相談にはどう対応しているのか。

(回答)相談対応しながらより専門的な内容は、専門機関等につないでいる。アワーズスタッフ全員が相談者の言葉を理解し、あいまいな対応をしないよう、これからも勉強する必要がある。

『協働運営会議との共催事業』について

(質問)登録している人、団体が一堂に会する機会はあるのか。団体間の交流も含め、意見の集約が難しいのではないかな。

(回答)現時点ではない。取り組めるか検討してみる。協働運営会議のメンバーは公募している。

(意見)単に利用するだけでなく、アワーズを良くするために考え意見交換できる、総会のような場があってもよいと思う。開館して10年以上たつので、検討してみてもは。総会と協働運営会議の位置づけが同じであってもいいのではないかな。

課題(2)評価シート記入

議題(3)その他 意見交換

議題(3)その他 意見・質問

- ・施設間連携事業については、目的に「区民の利益のため」と明記した方がよい。
- ・情報紙について、4面の「こんにちは アワーズです」は、応援隊の活動紹介の記事なら、それがわかるようなタイトルにすべき。高齢者にも対応して、文字を大きくしていると思うが、スペース等工夫すると掲載情報を増やせるのでは。
- ・フェイスブックでアワーズを検索すると、いろいろな記事がアップされており、愛されている施設だと感じる。アワーズもフェイスブックで発信してみてもは。
- ・まなぶん祭りも始めた当初5～6年は、どうやったら人が来る？ともがいていたが、ここ5～6年は小学校高学年の子どもが増えた。つられて立ち寄る人も多くなっている。
- ・地域と学校の連携は、使い方一つで宝物にも絵に描いた餅にもなる。地域の人はどう関わるかが大切。お手伝いできることがあればと思っている。
- ・「保土ヶ谷区民の将来設計図」をもとにディスカッションできればよかった。
- ・「保土ヶ谷区民の将来設計図」は、「市民がこんなことが出来るんだ」と意識できるよう、良く見える所に貼ってもらいたい。
- ・見違えるようなセンターになった。中身もしっかりしており、こんなにも違うのか、という感じるくらい良くなっている。ノウハウが貴重である。
- ・きめ細かい運営をしている。公的な施設に関わる立場として、利用者の利用目的を把握する難しさは痛感している。
- ・受託して1年目ということで、基盤づくりに徹してもらった。評議会の意見を踏まえて、次年度はステップアップできるよう取り組んでいきたい。